

茶と室内デザイン

小泉和子（家具道具室内史学会会長）編

▶B5判・140頁／定価：本体3,500円（税別） ISBN978-4-7842-1808-0

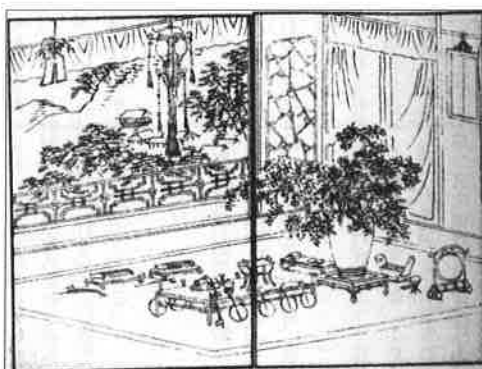
2015年6月刊行予定

日本にもたらされた喫茶文化は、室町時代の書院造に収斂され、その発展に平行して侘び茶による草庵風茶室が生まれた。

草庵風茶室は書院造に影響し、数寄屋風書院造になり、和風建築の基本がかたちづけられた。その後、江戸時代の煎茶の流行により和風住宅の特徴とされるデザインや室内意匠がつけられた。

このように日本的とされる日本住宅の室内デザインはほとんどが茶によって育まれたといえる。

茶が日本住宅の室内意匠にあたえた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録し、豊富なカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える一書。



『雲煙供養図録』明治十三年（一八八〇）国会図書館所蔵

目次

煎茶と室内デザイン

煎茶席の意匠的特質

「煎茶的」ということ

煎茶と唐木家具

黄表紙挿絵に表された唐風趣味

—安永期から天明期の作品を中心に—

十八〜十九世紀朝鮮における

茶亭とその家具

麓 和善
小川 後楽
小泉 和子
鶴岡 明美
西垣 安比古

侘数寄と室内デザイン

茶室—建築と道具の間—

茶室の建築と意匠

私の茶室像

侘数寄の茶と指物

熊倉 功夫
矢ヶ崎 善太郎
藤森 照信
小泉 和子



市場通笑作・伝北尾重政画
『家伝寿命業』
東京都立中央図書館加賀文庫蔵

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)		
冊数	冊	茶と室内デザイン	本体3,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1806-6		
お名前	tel					
	e-mail					
ご住所	〒		書店番線印			
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）					

春秋 京大和翠紅館 平安から平成まで 京の雅

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著／梅原猛序文
京都の老舗料亭京大和は、江戸時代には西本願寺の別業であり、翠紅館と称された。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や敷内流の茶室について、和建築の第一人者である中村昌生氏が、多数の図面とともに詳述する。
▶B5判・80頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1417-4

近代数寄者のネットワーク 茶の湯を愛した実業家たち

齋藤康彦著
高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三…近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。
▶A5判・308頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1603-1

講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編
茶の湯文化学会創立20周年記念出版。「中世」「近世」「近代」の3巻にわけて、時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論から成る。各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示する。最新の研究成果をふまえた茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。
▶46判・平均330頁／各本体2,500円(税別)

元伯宗旦の研究

中村静子著
「利休の孫」として知られる元伯宗旦——その生涯は病気がちで不明な部分が多く、残された史料から全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を丁寧に読み解くことで複眼的に究明する。
▶A5判・430頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1760-1

茶の湯 恩籟抄

戸田勝久著
裏千家今日庵歴代一人ひとりについての論考「裏千家 今日庵歴代」(13篇)、茶の湯ゆかりの人物をめぐって茶の湯の精髓が語られる「茶の湯掃苔抄」(12篇)、時空を自在に行き来する「江戸東京茶の湯散歩」(深川編8篇・日本橋編16篇)の3部構成。
▶A5判・652頁／本体5,500円(税別) ISBN978-4-7842-1751-9

※ 建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編
日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄る。寺社建築・茶室・建築生産史・都市史・近代建築についての15篇。
▶A5判・590頁／本体9,000円(税別) ISBN4-7842-1202-7

『作庭記』と日本の庭園

白幡洋三郎編
日本最古の作庭理論書として知られる『作庭記』には、中世の人々の作庭技術のみならずその背後に宿る思想・美意識が反映している。そうした着想から企画され、さまざまな専門分野からの意見を出し合い、議論し、「日本庭園を通じた古代・中世的自然観」の発見を試みる。
▶A5判・364頁／本体5,000円(税別) ISBN978-4-7842-1746-5

近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集
「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。第1部は「ヨーロッパの近代工芸運動」、第2部は「欧米の近代工芸運動とアジア」をテーマに論じられる23篇。
▶A5判・336頁／本体2,900円(税別) ISBN978-4-7842-1438-9

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編
野村グループの創始者・得庵野村徳七(明治11年～昭和20年)の文化遺産の精華は、京都の別邸碧雲荘(重要文化財)と、その隣で得庵のコレクション3000点を所蔵・展示する野村美術館に伝えられている。本書は、野村美術館設立30周年記念事業として、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。
▶A5判・506頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1701-4

近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著
明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか?千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。平成25年度茶道文化学術奨励賞受賞。
▶A5判・332頁／本体6,400円(税別) ISBN978-4-7842-1693-2

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著
「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。
▶A5判・454頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1377-1

茶の湯と音楽

岡本文音著
室町時代後期から江戸時代初期の千利休による大成という、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもときつつ、「音楽」の世界をとおしてみえる茶の湯の美意識を、大きく能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)という4つのトピックから明らかにする。
▶A5判・376頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1606-2

茶譜 [全2冊]

谷尻・矢ヶ崎善太郎校訂 茶湯古典叢書5
茶譜(全18冊)は、利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本とし、現存する諸本と校合して全編活字化。挿図についても別冊の写真版で全て収録。
▶A5判・本文篇756頁、図版篇168頁／本体20,000円(税別) ISBN978-4-7842-1528-7

日本庭園像の形成

片平幸著
「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にたどり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程を追う。
▶A5判・240頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1718-2

※ 大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本

谷直樹編著
江戸幕府の京都大工頭を代々務めてきた中井家に伝来する史料には、中井家の職務に対応して、城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、神社、数寄屋、書院の指図があり、江戸時代の建築に関する詳細な情報を得ることができる。図版517点を大判で収録し、解説を付す。
▶B4判・360頁／本体18,000円(税別) ISBN4-7842-1148-9

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編
京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとおして現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。
▶A5判・300頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1641-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。